



留学生生活1年をふりかえって

金

革*

祖国の大任を担って、去年の春桜満開の頃、中国の東北地方瀋陽から日本の地を踏み、阪大に派遣されたのはつい昨日のように思われますが、もうすでに8ヶ月余の時間が経ちました。その間、日本の友人から熱烈な歓迎を受け、故郷瀋陽を離れた時のいささかの不安がすぐに消え、あたかも、祖国にいるような気持ちで過ごすことが出来ました。

思い返してみますと、多くの先生方と一緒に衷心からおつき合いすることが出来て本当に幸せです。指導教官や研究室の皆さんが、心よく研究室の一員として迎え入れて下さり、何か不自由なことがあればすぐ相談にのり、全力を挙げて助けて下さいます。春、夏、秋、冬とうつりゆく四季を観賞するよう、花の名所や社寺仏閣を、また夏には涼しい高原を案内していただきました。

又日本に対する理解を深めるため、学内はもとより、学外の多くの方々や友好団体までも、工場や大学など色々の施設が見学出来る様にご配慮いただきました。私は異国にいる様な気持ちがなく、どこへ行っても暖かく迎え入れて下さる友人があり、ここ日本で、阪大で、多くの人々の御芳情のもとで、いままで熱い友情に包まれて生活をつづけてまいりました。まるで自分の故郷に帰って来たような気が致しております。私は偉大な祖国を愛するように日本の美しい山河や人々のやさしい人情を愛するようになりました。

本当の中日友好がなにかということをもっと体験いたしました。一般大衆の基礎の上に築かれた友情はどんな力でも破壊することが出来ません。いつの世代でも、人民ただ人民こそ

が歴史を動かす本当の原動力です。これまで出会った多くの日本人はまるで、私の父兄、兄弟、姉妹のようです。ここで私は多くのことを学び得ました。研究を通して、阪大をはじめ、東大、京大など多くの先生方や学生諸君のご指導とご援助をいただいて来ました。このような諸先生方や若い学生諸君のご好意はいつまでも忘れることが出来ません。

中日両国は一衣帯水の隣国であり、両国での文化、教育面でも交流には長い歴史を持っております。私達両国の学者と僧侶の友好往来が頻繁に始められたのは、はるか2000年も昔の事です。近代に入ってから、中国学生の日本留学はさらに多くなってまいりました。

私達の敬愛する周恩来総理、魯迅先生、郭沫若先生はその青年時代に国を救い、民衆を救う道を求める為、日本に留学し、日本の各界の友人と深い友情を結びました。この友情がこれからも子々孫々にわたって、発展していくものと私は信じております。中日平和友好条約の締結によって私たち両国間の友好関係史上に新しい一頁が開かれました。経済、文化、教育、科学技術など各分野にわたっての交流は、新たな発展を見せております。留学生の派遣が日増しに増えつつあることもその一つであります。

私の祖国はいま今世紀末までに中国式の現代化を実現することをめざしております。中日両国人民はともに自らの未来を築くために働いており、また平和を守る為に努力しています。これは中日両国人民のいまの世代、次の世代、その次の世代が努力しなければならないことであります。かつて郭沫若先生はこのような両国の関係を「深々たる情誼二千載、茫々たる北海も一衣帯水なり」と謳いあげられました。中国と日本に於て多くの先駆者がこのスローガンのために生涯奮闘しました。

*金 革 (Ke CHIN), 瀋陽化工学院助教授, 基礎工学部化学工学科, 大竹研究室, 中国政府派遣研究員, 反応工学

生産と技術

私は日本留学を通じて、日本社会を理解し、日本の多くの方々と友達になり、日本の文化、先進的な科学技術を習得して、中国の社会主義建設と中日両国人民の間の永遠の友情を発展させる為に大きく寄与してゆきたいと思っております。

ます。その目的を実現させるには、是非先生方のご協力が必要であります。どうかこれからも引き続きご愛顧のほどよろしく願いいたします。



図1 天安門広場と街頭写真屋

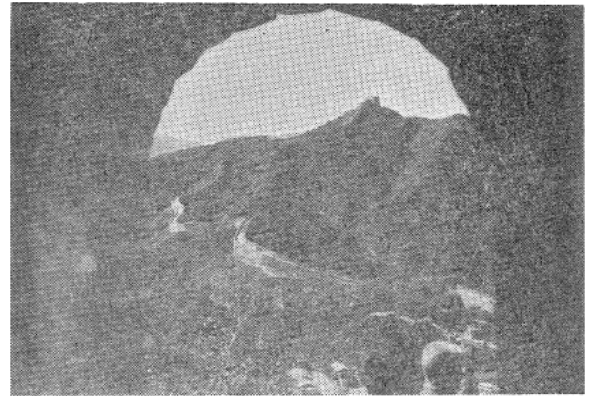


図3 万里の長城



図2 北京市内バス

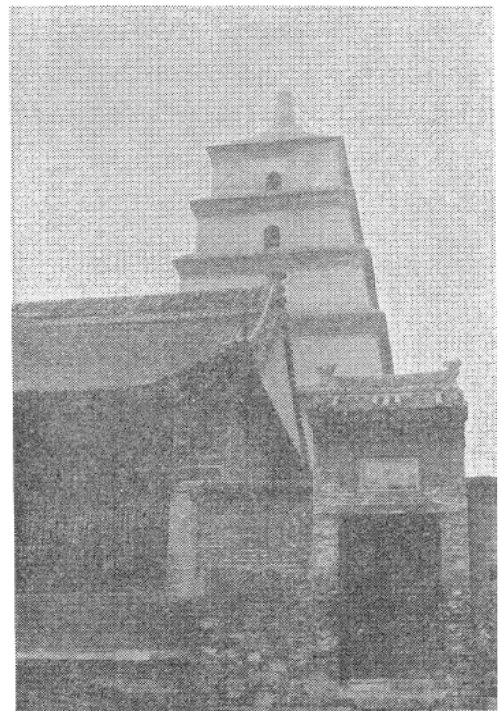


図4 2千余名の遣唐使が学んだ大雁塔